

梅雨の合間—校舎玄関を彩るソユクサ

2021年度 学友会入部届 集計

	中1	中2	中3	中学合計	高1	高2	高3	高校合計	総部員数	中学部長/キャプテン	中学副部長/副キャプテン	中学マネージャー	高校部長/キャプテン	高校副部長/副キャプテン	高校マネージャー	
学芸部	英語部	1	2	0	3	2	3	2	7	10	(中高一緒に活動)			高3-1 齊藤大毅	高3-3 河野真之	
	演劇部	2	0	4	6	0	3	1	4	10	中3-3 坂本 琉			高3-2 石川貴一		
	科学部	5	3	5	13	2	3	3	8	21	中3-4 高橋 歩			高3-3 嵯峨野涉		
	写真部	6	1	3	10	4	11	0	15	25	(中高一緒に活動)			高2-1 金子龍之介	高2-3 池上 創	
	吹奏楽部	14	8	9	31	11	13	7	31	62	中3-3 鳩岡瑠佑	中3-1 大住光希 中3-3 高橋 駿		高2-1 伊東音弥	高2-1 山下雄太郎 高2-3 陣内風大	
	数理研究部	8	8	7	23	9	9	3	21	44		中3-4 神宮司歩		高3-3 林 幸希		高3-2 長谷川眞藏 高3-3 向殿天晴
	生物部	3	1	2	6	1	4	1	6	12	中3-1 生井陽行			高3-3 平田光佑	高2-2 佐藤竜誓	高2-4 田尾優樹
	聖ポーロ会	0	0	0	0	3	2	1	6	6						
	地歴研究部	3	5	0	8	3	4	6	13	21	(中高一緒に活動)			高3-3 森田幸暉		
	鉄道研究部	4	3	2	9	3	3	5	11	20	(中高一緒に活動)			高3-1 中山裕太	高3-2 目崎泰成	高2-4 中野遥葵
	天文部	2	1	0	3	0	1	2	3	6	(中高一緒に活動)			高3-1 大西悠月		
	美術部	3	4	4	11	4	4	11	19	30	(中高一緒に活動)			高3-1 長峰千拓	高3-3 横山開斗	
	文芸部	0	1	7	8	5	4	9	18	26	(中高一緒に活動)			高3-4 野口大清		
	放送研究部	14	5	6	25	6	2	3	11	36	(中高一緒に活動)			高3-1 三宅拓磨	高3-3 森田幸暉	高3-1 藤井万里
	クワイアー	3	3	4	10	2	0	5	7	17	(中高一緒に活動)	中3-4 初田全彦	(中高一緒に活動)	高3-1 丹羽隆樹		
合計(A)	68	45	53	166	55	66	59	180	346							
(アコライト)	0	0	4	4	2	3	1	6	10	(中高一緒に活動)			高2-2 後藤 稔			
運動部	剣道部	3	1	1	5	3	2	0	5	10	中3-4 佐久間仁			高2-3 菱山紀武		
	ゴルフ部	2	8	2	12	5	10	6	21	33	(中高一緒に活動)			高3-1 上村侑輝	高3-4 荻森王恭	
	サッカー部	16	13	24	53	17	9	12	38	91	中3-2 榎田 順	中3-2 神藤杏吏 中3-1 町田 健	中3-4 中島 遼	高3-3 西澤城太朗	高3-3 松井浩平 高3-4 栗国 輝	高2-3 山田麻陽
	山岳スキー部	8	1	1	10	8	5	2	15	25	中3-4 高橋泰人			高3-2 野口耀大		高3-3 森田幸暉
	水泳部	10	9	4	23	15	7	12	34	57	中3-1 浦澤 歩	中3-3 岡本優杜	中3-2 大内玲旺	高3-3 山岸洋太	高3-2 浦澤 仁	高3-4 小石康太郎
	卓球部	6	17	22	45	9	12	6	27	72	中3-2 阿部剛登	中3-3 川崎哲弥	中3-1 長副 智	高3-3 小田圭将	高3-2 福元颯太	高3-2 加藤龍之介
	庭球部	15	18	13	46	15	10	9	34	80	中3-3 林 陸人	中3-2 金子正人	中3-3 島田晴希	高3-2 浅井信吉	高3-2 室井優佑	高3-4 明星悠大 高3-4 高山 航
	バスケットボール部	18	27	20	65	14	4	9	27	92	中3-2 土方小五郎	中3-4 喜多村昂大 中3-4 杉浦耀斗	中3-1 石神 喬 中3-3 貴堂剛生	高3-4 稲垣 薫	高3-2 川本凌大 高3-1 南 雄太	高3-4 高島悠太郎
	野球部	11	12	2	25	21	18	15	54	79	中3-1 関口陸大 中3-3 光永 春			高3-1 吉川大輝	高3-2 橋本優輝	高3-1 寺田貴彦
	陸上競技部	15	9	14	38	1	5	9	15	53	中3-2 福本陽平	中3-1 山内琢生 中3-3 吉澤清良	中3-3 中村 響	高3-1 川嶋康駿	高3-1 大野寧央	高3-3 島村涼太
	釣り同好会	8	2	5	15	3	0	0	3	18	(中高一緒に活動)			高1-3 原田斎紀	高1-4 黒田英士朗	高1-1 赤松 優
	合計(B)	112	117	108	337	111	82	80	273	610						
総計	180	162	161	503	166	148	139	453	956							

※兼部の生徒も含まれます。なお、三役の呼称は、部・会により異なります。

✝ 今月の聖句

“My grace is sufficient for you, for my power is made perfect in weakness.”

II Corinthians 12:9

We have been living more than a year in various stages of lockdown, emergency, short returns to “normalcy,” and then suddenly returning to life under restriction. It is all rather tiresome. We wish for a more stable, understandable, foreseeable future. But somehow, setbacks, confusion, and inconsistencies are prevalent. How do we deal with this kind of daily life? Sometimes, it helps to look at how others experienced similar episodes. We have a resource to show us, that is, the Bible. In particular, if we recall the struggles of the Hebrews as they escaped from Egypt and trekked 40 years in the wilderness back to their promised land. What we can see from this episode is that all along God’s unfailing care was with them. The desert was surely a place of humbling and testing the people. But these hardships insured that the Hebrews would clearly see how much they depended on God’s helping hand. God had not wanted to punish or test them, but their inability to follow God properly meant that some kind of discipline was needed. We are also loved, humbled and disciplined by God as we face our own “desert” situations, such as the long lasting effects of this

pandemic. What about a more individual experience? Paul readily gives us many, but let’s look at one in particular. In the Second Letter to the Corinthians, Paul mentions a burden that he carries with him constantly. He tries to rationalize the burden, even trying to connect it to his spirituality. He calls it a “thorn in the flesh” but we do not know exactly what it was. (Some scholars suggest he was actually crippled, or had a disease such as epilepsy or diabetes but we have no way of really knowing what that “thorn in the flesh” was for him.) We know that it was something bothering him deeply, enough that he asked God, at least three times, for relief from this burden. He has found no relief, but discovered something else that comforts him: his weakness actually serves God the best. “My grace is sufficient for you, for my power is made perfect in weakness.” Paul had learned that God’s power is sufficient for his own life. Knowing this sufficiency greatly assured Paul. And, it can do the same for us. If we feel inadequate, if we feel lost in this continuing pandemic situation, we are confessing our weakness; but we need to tell this to God. If we tell him, through prayer, then He is able to fill us

with His strength. Then, nothing that we are asked to do, including just bearing the burdens we carry, is beyond our ability. Believing that we are loved, humbled and disciplined by God when we face our own “desert” situations, just as the Hebrews did in the wilderness several thousand years ago, as well as knowing, as Paul found, that in our human weakness, we can use God’s guiding hand, God’s own strength; these give us the best and only way to meet and persevere during these difficult days. May God be with us! Chaplain Mark Stahl



中学一年便り

神様にお願ひするなら：

ある将棋のトーキイベントで的一幕。
 「将棋の神様にお願ひできることがあるとしたら、何をお願ひしますか？」
 複数の棋士が答えた。
 「全部の対局を勝ちにしてほしい！」
 「強くしてほしい！」
 「現役をあと三十年！」
 最後に指名された藤井聡太七段(当時)が次のように答え、会場を沸かせた。
 「せつかく将棋の神様がいるなら、一局お手合わせ願ひたい」
 神に頼る者と神に挑む者の絶対的な差を感じた、とネットでコメントする人もいた。両者の決定的な違いは、神を引き寄せるか神に近づくとかと言えよう。
 神を自分の側に引き寄せるとき、神は自分の欲を叶えるため

高校一年便り

高校時代の变化

今年度から皆さんに英語を教えることになりました。私にとつて高校生を担当する一番の面白さは、ある時期から何らかのきっかけによって大きな成長を遂げる生徒を目の当たりにできることです。この現象はうまく説明できないのですが、少し胡散臭い言葉で表現すると「覚醒する」とでもいえないでしょうか。
 授業中にそれほど目立たなかつた生徒が、ふとした瞬間に、英語の発音を滑らかにできるよ

の道具に成り下がる。一方、自らが神に近づくとき、人は身を低くし、頭を垂れる。神がどのようなお方なのかを謙虚に知る過程となる。神を知り、その目から自分を見ることで自分に足りないところを知ることでもできる。

キリスト教にも、御心に聴く、という表現がある。自分のしたいことばかりの生き方ではなく、日ごとに神に近づき、神が自分に何を望んでおられるかを静かに聴く。そのような歩みの先に立教生らしい成長があると信じている。中学入学後はじめての夏休み。静かに御心に聴き、日常を見直す。飛躍のカタラをつかみ、中期にまた会おう。
 「主の御心が何であるかを悟りなさい。」
 (エフェソ5・17)
 (吉田清典)

中学二年便り

習慣化の効能

一年の半分が過ぎて、今日から夏休みです。月日の経つのは本当に早いもので、す。
 さて、新年に掲げた今年の抱負や前期はじめに立てた計画など順調に進んでいますか。
 総合テスト中に、近くの幼稚園の前を通つたら、玄関に七夕の飾りがあり、短冊が風に揺れていました。そこには子どもたちのさまざまな願ひ事が書かれていたのでしょうか。
 皆さんだったらどんな願ひ事を書きますか。勉強、スポーツ、将来の夢などでしょうか。それぞれの願ひ事が叶うといいですね。しかし、それらは願ひしているだけで叶いません。何事も努力が必要です。
 世の中には大した苦労もせず成果を上げていく人がいます。皆さんの周りにもそんな人はいませんか。

高校二年便り

冷静な修養

七月といえば、七夕の行事が報道され、花火が巷をにぎわせます。一年に一度二人が出会うためには、舟に見立てた半月の存在が必要なのだが、太陰暦ならば七月七日には必ず半月(上弦の月)が見えています。現行暦ではそうもいきません。昔ながら半月があつても天の川の光まで消し去ることはなかつたのでしよう。五〇年前には、国内で小笠原が真の暗闇を体験できる最後の地といわれていました。が、どうせならコロナ禍により、暗闇をよびもどしてほしいものです。
 五月の皆既月食では、新型コロナウイルスによる外出自粛中でも多くの人が月食観望をしないで、星空への関心が衰えていた。このことをうれしく思いました。制度が変化したり、社会の状



実はそういう人は勉強やスポーツの習慣化ができています。歯磨きが毎日努力しなくても続けられるのと同様です。今はつらいことでも習慣化できれば苦もなく継続できるようなのです。習慣化は早ければ三週間で身につくと言われています。
 夏休みの間、自分の目標に向かって必要なことを習慣化する努力をしてみましよう。日々の地道な継続が今まで不可能だったことを可能にしていける鍵です。長い期間を有効に活用できるようにぜひ頑張ってください。
 (山口弘泰)

中学三年便り

ゴールドバッハ

私が高校受験を控えた中学三年生の夏ごろ、数学の先生がテスト範囲を終えたので授業は自習にしようと言った。そのときに教えてもらった難しい問題が二つの素数の和で表せない偶数があった。
 いくつか例を考えてみると、まず $4=2+2$, $6=3+3$, $12=5+7$ と表せてしまつた。では10はどうなるか、 $3+7$, $1+8$, $17+83$ などとたくさん出てくる。因みに1は素数ではないので、2を1ととはできない。100まで考えれば一つぐらいすぐに見つかりそうな気がしたので、攻撃を続けながら中々見つからな。100を超え始めるのと今度は使う数字が「素数」であるかどうかを調べることが面倒になつてきた。もうその辺りで薄々「ないんじゃないか」と思い始めた。つまり、

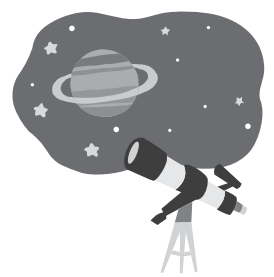
高校三年便り

選考の条件

オリンピック代表選考が佳境を迎え、悲喜こもごもの人間ドラマが見え隠れする(七月一日現在の話)。陸上男子100m、九秒台が五人もいるのは、かのジャマイカに匹敵する層の厚さと聴いて驚くばかり。ふた昔前なら考えられない時代となつた。
 一発勝負の決定戦は明快であつたが、それだけに割り切れない難しさもあつたと思う。100mも200mも二位になつた選手が「何でやねん！」とは言わないと思うが、一発勝負の舞台で立派な結果を出したことは変わりない。三位と四位の差はわずかに百分の一秒。代表になれない二位の選手が出ていなければと考えるのは私だけか。
 以前にはマラソン代表の選考方法について物議を醸したこと

「2以外のすべての偶数は二つの素数の和で表せる」と。次に、攻め方を変えて「二つの素数の和で表せない偶数nがあつたと仮定する。すると…」と矛盾を示すやり方で攻撃を始めてみた。しかし、またもやすぐに「素数」の壁にぶち当たつた。整数に関する根本的な真理を前にして戦略的撤退を決めた。気になって調べてみたら「答えのない問い」だつた。つまり、そういう偶数があるかも知れないし、ないかも知れない。ただ誰も説明しきれない(証明できない)ということだつた。
 義務教育も終わりがけの君たちが「自分の進路」という答えのない問いにどう取り組むのか。がむしやりに進んだり、一旦立ち止まって助けを求めたり、白旗を挙げて助けを求めたり、日本から海外へ戦略的渡航もありかも知れない。夏休みを利用して色々と考えてみる時間をつくってみてはどうだろうか。
 (伊藤 俊)

もある。
 標準タイムや勝ち負けなど、選考が見える形で表れる競技ならまだしも、思いを噛み殺しながら涙を流したアスリートもいたと想像する。
 世に選考のための条件は数々あれど、与えられた条件が自分にとってプラスなのかマイナスなのかは結果でしか判断できない。条件の矛盾にボヤキながら戦うよりも、これぞチャンス。プラス思考で戦うことの方が間違いなく結果は良さそう気がする。
 貴方に与えられた幾多の選考条件、戦う前に抜け道ばかり探していませんか！
 (増田 毅)



(宇津木千秋)

況が変わって、本来の姿で伝えられてこなかったり、見えなくする障害がでてきたりします。が、惑わされたいための地道な修養が求められています。その意味でこの前期はただひたすら授業に明け暮れ有意義なものでした。高二年生も続々と、英検二級一次合格者が出、物理基礎でも沈没しませんでした。
 この夏は宇宙一の人気を誇る土星が観望の好期を迎え、上旬には新月で流星が楽しめるそうです。いろいろな感動を得る機会があふれています。それを感じ取るための冷静な修養を積んでいきましよう。
 (宇津木千秋)